

2007年10月9日

慢性腎不全患者さんのライフスタイルに応じた治療法の積極的な情報提供が急務

日本腎臓学会、日本透析医学会、日本移植学会 慢性腎不全 治療法の選択における啓発活動で初の連携

～慢性腎不全患者さんのための治療法啓発小冊子『腎不全の治療選択 あなたはどの治療法をえらびますか?』刊行

日本腎臓学会(事務局:東京都文京区、理事長:菱田明)、日本透析医学会(事務局:東京都文京区、理事長:西沢 良記)、日本移植学会(事務局:東京都新宿区、理事長:田中 紘一)の腎不全治療に深い繋がりのある3学会は、共同啓発活動の初の取組みとして、慢性腎不全患者さんのための治療法啓発小冊子『腎不全の治療選択 あなたはどの治療法をえらびますか?』を本年9月に刊行しました。

この冊子は、慢性腎不全の各治療法である、「血液透析」・「腹膜透析」・「腎移植」の長所・短所を正確に伝える目的で作成されました。慢性腎不全は、健康とその後の人生に与える影響が極めて大きな病気であり、治療生活のQOL向上とインフォームド・コンセントの充実が叫ばれる昨今、腎不全を抱えた患者が各治療方法をきちんと理解した上で、ライフスタイルや生き方に応じた治療法を選択することの重要性は増すばかりです。以上の認識から、日本腎臓学会 腎移植推進委員会の名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センターの両角國男先生が中心となってこの冊子を企画制作しました。また、これは3学会が慢性腎不全の治療法選択を啓発するために連携した初の成果と言えます。

我が国の透析療法は、1970年前後から開始・普及し始め、10年20年の透析生活が可能という時代になってきており、最長透析歴は38年と長期透析が大きな特徴になってきています。また、慢性透析療法の現況^{※1}によると、現在の慢性透析患者数は26万4,473人で、新たに透析導入される患者は年間3万5千人を数えています。このことは、透析治療にかかる医療費の増大を意味し、医療経済に深刻な負担をかけています。

不幸にして慢性腎不全になられた患者さんが、自分の生活スタイルや生き方に応じた治療法を選択し、腎不全の生活をより快適に過ごすことが強く求められる一方、透析導入に至らせないために、慢性腎臓病(CKD: Chronic Kidney Disease)の早期発見・早期診療を実践することも緊急の課題となっています。

これらの状況を受け、日本腎臓学会では、今年5月の第50回日本腎臓学会学術総会で発表した国内初の慢性腎臓病(CKD)の診療ガイド『CKD 診療ガイド』を9月に東京医学社より刊行しました。腎臓病を専門としない医師を対象に、慢性腎臓病(CKD)のわかりやすい診療ポイントを示し、CKDの的確な診断指標として期待されるGFR^{※2}推算式や簡便にGFRを知るための早見表やノモグラムを掲載したほか、かかりつけ医と腎臓専門医との連携のタイミングを明示するなど、治療現場での実用性を重視した極めて実践的なものです。このように、慢性腎不全を含めた慢性腎臓病(CKD)の啓発活動は着実に進行しています。

日本腎臓学会、日本透析医学会、日本移植学会の3学会が共同して作成した小冊子『腎不全の治療選択 あなたはどの治療法をえらびますか?』は、全国の日本腎臓学会認定施設・日本透析医学会認定施設・同教育関連施設に設置されるほか、近日中に下記の各学会ホームページにアップロードされる予定です。

日本腎臓学会 <http://www.jsn.or.jp/>

日本透析医学会 <http://www.jsdt.or.jp/>

日本移植学会 <http://www.asas.or.jp/jst/>

※1 日本透析医学会が全国の4,051施設に対し実施した透析患者数の現況をまとめたもの。最新版は2006年末の累計

※2 GFR=糸球体濾過量(しきゅうたいろかりょう)。腎臓内の糸球体で物質が濾過される能率、腎機能を表す指標

<小冊子概要>

タイトル:腎不全の治療選択～あなたはどの治療法をえらびますか？

形体:4色カラー 42ページ

発行:日本腎臓学会、日本透析医学会、日本移植学会

目次:

I.腎臓の働きと慢性腎不全

- ・ 腎臓とは？
- ・ 腎臓は何をしているの？
- ・ 慢性腎臓病とは？腎不全とは？
- ・ 腎不全の治療法は？
- ・ どうなったら透析や移植が必要になるの？

II.透析療法

- ・ 透析療法とは？ 1 血液透析 2 腹膜透析
- ・ 血液透析
- ・ 腹膜透析
- ・ 透析療法の開始時期は？
- ・ 透析療法を開始するための準備は？
- ・ 血液透析特有の合併症は？
- ・ 腹膜透析特有の合併症は？
- ・ 血液透析・腹膜透析に共通する合併症は？

III.腎移植

- ・ 腎移植の現状はどうなっているの？
- ・ 腎移植は誰でも受けられるの？
- ・ 生体腎移植のドナーは誰でもなれるの？
- ・ 生体腎移植ドナーのリスクは？
- ・ 腎移植手術はどんな手術なの？
- ・ 腎移植後はどんなことに気をつける必要があるの？

IV.慢性腎不全患者さんの医療費及び社会福祉サービスについて

- ・ 血液透析・CAPD 導入の患者さん
- ・ 腎移植予定の患者さん
- ・ 腎移植後の患者さん



<日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)について>

慢性腎臓病(CKD)は国民の健康保持にとって重大な脅威となっているにも関わらず、社会的な認知度は低く、また、医療者の中でもその対策の重要性が十分に認識されているとは言えません。

そこで慢性腎臓病(CKD)を社会に広く啓発し、その対策が国民的な規模で推進されるよう働きかけることを目的に、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本小児腎臓病学会の腎臓関連3団体が共同で、2006年6月25日に日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)を設立しました。

この協議会は、今後、慢性腎臓病(CKD)とその合併症の克服のために、関連するあらゆる組織(学術団体、行政、市民、患者、など)と協力しながら、啓発活動を展開してゆく予定です。

なお、本協議会にはオブザーバーとして、日本腎臓財団およびNPO法人腎臓病早期発見推進機構(IKEAJ)も参加しています。

日本慢性腎臓病対策協議会 役員名簿	
理事長	菱田 明(日本腎臓学会理事長)
副理事長	西沢良記(日本透析医学会理事長)
副理事長	五十嵐 隆(日本小児腎臓病学会理事長)
理事	齋藤 明(日本透析医学会)
理事	榎野博史(日本腎臓学会)
理事	秋澤忠男(日本透析医学会)
理事	上村 治(日本小児腎臓病学会)
理事・事務局長	松尾清一(日本腎臓学会)
監事	今井圓裕(日本腎臓学会)
監査	下條文武(日本腎臓学会監事・前理事長)
顧問	酒井 紀(日本腎臓財団)
オブザーバー	浅野 泰(日本腎臓財団)
オブザーバー	高橋 進(NPO 法人 IKEAJ)